5月 保健ガイド

問 健康推進課 ☎63-3300

	内容（予は要予約）		とき		対象
母子保健	親子健康手帳交付		10日(火) 30日(月)	9:45集合 13:30集合	妊婦
	予 パパママ教室(1回目) ※定員10組		10日(火)	10:30受付～11:30終了	主に妊娠6か月ごろまでの初妊婦とその夫
	予 パパママ教室(2回目) ※各回定員7組		6日(金) 26日(木)	13:15受付～15:00終了	主に妊娠7か月以降の初妊婦とその夫
	予 妊婦訪問		訪問は予約制です。 (希望者は保健センターへ連絡してください)		妊婦(訪問は妊娠中1回)
	こんにちは赤ちゃん訪問		3～4か月児健診受診前		すべての赤ちゃんとその保護者
	のびのび計測日※1	上郷児童館	16日(月)	10:00～10:30受付	未就園児 ※1医師の診察はありません。 持 親子(母子)健康手帳・乳児の場合はバスタオル
		保健センター	20日(金)		
		西児童館	26日(木)		
	予 離乳食教室		18日(水)	10:00～11:15	主に第1子(4～5か月)をもつ保護者(乳児同伴可)
	予 妊産婦歯科健康診査		予約してから、市内委託医療機関で受診してください。		妊婦と産後1年未満の産婦

予防接種

予約してから、市内委託医療機関で接種してください

※子どもの予防接種は「不要不急」ではありません。早めの接種をお願いします。

予 ロタウイルス	1価ワクチン:出生6～24週　5価ワクチン:出生6～32週
予 B型肝炎	生後1歳未満
予 ヒブ、小児用肺炎球菌	生後2～60月に至るまで
予 4種混合、不活化単独ポリオ	生後3～90月未満
予 BCG	生後1歳未満
予 麻しん・風しん混合、麻しん単独・風しん単独	第1期：生後12～24月未満 第2期：小学校入学前の1年間
予 水痘	生後12～36月未満
予 日本脳炎	1期:生後6～90月未満、2期:9～13歳未満 救済制度により対象以外で接種可能な場合あり
予 二種混合	11～13歳未満
予 子宮頸がんワクチン	小学6年生～高校1年生の女子 救済制度により対象以外で接種可能な場合あり
予 高齢者肺炎球菌ワクチン	65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳

2021年11月26日から積極的な接種の勧奨を再開しています。

予 新型コロナワクチン集団接種	[18歳以上、3回目] 場 市役所西庁舎	土	9:00～11:00、 14:00～16:00受付	対 個別通知します
	[5～11歳、1・2回目] 場 保健センター			

※必ずweb、LINEまたはコールセンターで予約してください。
☎0561-56-0120(9:00～16:45 毎日受付(祝日を除く))

成人保健	予 個別特定健康診査	10月31日までに市内委託医療機関で受診してください。 ※胃内視鏡検診のみ、一部医療機関で12月まで受診可。	市国民健康保険加入者で40～74歳の人
	予 後期高齢者医療健康診査		後期高齢者医療制度加入者
	予 個別がん検診※(胸部・胃・大腸・前立腺)		40歳以上の人 (検診によって対象制限あり)

5月の納期一覧

納期限(5月31日)

税目	納期	問合先
固定資産税・都市計画税	第1期	収納課 ☎56-0610
軽自動車税	全期	

口座振替の人は、納期限の日に引落しますので残高を確認してください。
納付は便利な口座振替を利用してください。
スマホアプリ決済もご利用になれます。
※市税については、パソコン、スマートフォンからクレジットカード納付もできます。

日曜・祝日の受診は

東名古屋医師会休日急病診療所
☎0561-73-7555
診療日時　日曜・祝日
9:00～16:30(昼休憩1時間あり)
診療科目　内科・小児科
所在地　日進市蟹甲町中島22

急な病気・ケガの時は

救急医療情報センター
☎0561-82-1133
24時間365日対応可。症状に応じてその時診療できる最寄りの医療機関を案内。

愛知医科大学病院 時間外診療

救急でかかりつけ医が開いていない場合、診療を受けることができます。
まず、電話で相談してください。
☎0561-62-3311(代表)
なお、時間内、時間外問わず、紹介状なしで受診する等の場合、選定療養費が必要になることがあります。詳しくは愛知医科大学病院へお問い合わせください。

まちの保健師

保健師がさまざまな場所に出向き、健康相談をお受けします。
詳細は市HPへ。

ドクターからあなたへ

赤ちゃんの肌と食物アレルギー

杁ヶ池KIDSクリニック 片野(かたの) 直之(なおゆき)

かつてアトピー性皮膚炎は、食物アレルギーによるものではないかと考えられ、血液検査で数値が高いとその食べ物は避けられていました。しかし、現在ではその考えは否定され、「経皮感作(けいひかんさ)」と「経口免疫寛容(けいこうめんえきかんよう)」という考えが主流です。

肌が荒れるとバリア機能が低下し、家の床にある食べ物の成分が皮膚から入り込みアレルギー発症の準備をします。これを「経皮感作」と言います。化粧品から小麦アレルギーが頻発した事件は記憶に新しいところです。先に皮膚から卵などの成分が侵入し「経皮感作」していると、赤ちゃんがはじめて食べた時に、アレルギーを発症しやすくなります。そこで出生時からスキンケアをして肌をきれいに保つことがアレルギー予防に大切です。お風呂で皮膚の汚れを泡のせっけんを使って優しく洗い流す、乳児湿疹も早めにステロイド剤などを使用して治し、保湿剤でつるつるの状態を維持してあげましょう。

離乳食を遅らせすぎないことも大切です。生後5か月から離乳食を開始し、卵も6か月頃から食べ始めることが推奨されています。早期から少量ずつ口に入れることで体が食べ物に次第に慣れてアレルギーの発症が減少します。これを「経口免疫寛容」といいます。アレルギー素因のある子ほど離乳食を遅らせないのが大切です。アレルギー家系や、湿疹がひどい場合は小児科専門医にご相談ください。

問 問い合わせ先　時 とき　場 ところ　対 対象　内 内容　¥ 費用(記載がないものは無料)　持 持ち物
申 申込方法(記載がないものは申込不要)　他 その他　ス スマイルポイント対象事業
申込や縦覧等の窓口・電話受付は、原則開庁時間に限ります。予 予約が必要なもの